

「イエスの御側に」

～主のぶどうの木へ～

ヨハネ 14:21～27、15:1～19

■ 本来の人間の姿が失われてきている 社会の現状

神様は人間を受ける者ではなく、与え合う存在として神御自身と同じように創られたので、人間は本来無制限に、見た事もない人にも与える事が出来る存在です。でも今、人間がゴリラ化して、自分にとっていい人や関係のある人だけにしか与えられなくなり、人間としての存在が失われてきています。人間は自然の資源を使いすぎてしまっており、このままだと、1/3の人が死なないといけない現状があります。又、今の社会は人と人の関係性が失われている孤立社会、無縁社会、ライン社会になっており、難しい事は会うより、文章で送ろうとする時代になっています。ラインは顔を合わせて話す時に比べて、伝わる情報量が少なすぎる為、多くの問題が起きて大変な事になっています。共感が出来ない社会は持続可能ではなく、人との関わりを小さくして人と関わる事が苦しくなって孤独を感じる社会で、関係性が遮断され、他者との関わりが面倒になり、無関心で無視する社会です。これは愛の枯渇した状態です。

■ 誰に繋がって生きるのか

私はまことのブドウの木であり、私の父は農夫です。私の枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶものはみな、もっと多くの実を結ぶために、刈り込みをなさいます。私はブドウの木であなたがたは枝です。人が私に留まり、私もその人の中に留まっているなら、そういう人は多くの実を結びます。私を離れては、あなた方は何もすることが出来ないからです。誰でももし私にとどまっていなければ、枝の様に投げ捨てられて枯れます。人々はそれを寄せ集めて火に投げ込むので、それは燃えてしまいます。(ヨハネ 15:1～6)、ここを読んで、祝福と感じるか、恐ろしいと感じるか、神様との関わりによってこの個所の感じ方は随分違います。火に投げ込まれて焼かれるのは自分だと思った人はいませんか？日が当たらないと枯れてしまうので、日が当たるようにするのが農夫なので、刈り込まれて燃やされるのは、枯れた枝なのです。このブドウの木の話を聞いた人は皆喜び、イエス様も私達の喜びの為に話されたのです。でも、中には私は実を結んでいないと思って焼かれてしまうと恐ろしく感じた人もいました。それは喜びでしょうか？

■ イエス様に留まる＝愛の中に留まる

クリスチャンはいつも、実をみのらすのは自分だと思っています。この個所は実を結ばない事についてではなく、イエス様に留まる事の大切さを伝えています。何年もイエス様から離れて痛み悲しみを通して枝が接ぎ木されてようやく育っている時に枯れた枝があるので不要な枝を切っているだけで、全体が枯れている訳ではないのです。伸びた髪の毛を切るのと同じです。ブドウの木のたとえ話は人生で不要な物を取り除き、日が当たっていないと、当たるようにされ、実を結べるようにしている話です。その為、元気になって実を結べるまで待つ必要があるのです。実がみのらない事ではなく、喜んで木と一緒に共感して喜びあう事が大切と伝えています。十字架とは、愛しているという事です。愛しているという事が分かるまで、愛されていないと思っっている過去を取り除いているだけです。色々な方法で神様は私達と関わり、過去を断ち切って下さっています。その時は痛みを感じますが、目的は私の喜びがあなた方のうちにあり、あなた方の喜びが満たされる為(ヨハネ 15:11)なのです。私の喜びとありますが、神様の喜びを自分の喜びとして受け取る為に神様に近づく事が大切です。神様の喜びを受け取った人が与える事が出来るのです。イエス様があなたにどんな実をみのらされるのか知る為に、枝が生き続ける為に毎日エネルギーをもらい、神様の前に受容される必要があります。供給する為に受けるのです。受容していても、供給する必要のないところに供給しているかもしれないので、余分なものを取り除くのです。神の戒めは〇〇しては駄目とい

うものでしょうか？旧約の十戒はそうでしたが、新しい戒めは「私の戒めを保ち、それを守る人は私を愛する人です。私を愛する人は私の父に愛され、私のその人を愛し、私自身を彼に現わします(ヨハネ 14:21)」とある様に、イエス様の言葉に留まり、神の愛の中に留まり、愛されている事を感じようとする事、互いに愛し合い、愛を流す事です。愛されているとは自分にとってどういう事か、一人一人が感じる事が必要です。

■ 本当の実

大人と子供の違いは何でしょうか？①子供は今を生きて不安を将来に抱かない②信じる事が出来る③クリエイティブ④好奇心旺盛で差別しない⑤感情表現が出来る⑥褒められる事が出来る⑦嬉しいと言う事が出来る。反対に大人は過去と未来に生き、あんな事は出来ないと思い、比較し差別します。正しく感情表現が出来ず、素直に褒め言葉を聞く事が出来ません。最近子供でも大人化しており問題です。神様は幼子の様になりなさいと言われていました。今までの枝の価値観が変わる必要がありますか？あなたは、毎日毎日を大切に生きて、その日を楽しんでいますか？目の前の現実を神様が祝福すると信じて、良くなる事を想像できていますか？神様が目に見せてくれたものに好奇心を持って差別意識を持たずに関わり、全ての事に理由がある事を理解していますか？今、刈り込み中の人もいれば、刈り込みの終わった人もいます。一人一人種類もスピードは違うのに差別していませんか？素直な感情表現を神様に人に対してしていますか？褒められる事が出来ていますか？この7つのポイントがぶどうの木が枝になる事。幼子の様に農夫に委ねる姿です。一人で生きてきた私達が、神様に繋がっていく事が大切なのです。この7つのポイントの中であなたはどれが一番弱いのですか？そのまま、実を結ぶとあなた自身か疲れてしまうから、実を結ばせないようにしている枝を刈り取ってもらう必要があるのです。神様はあなたがきちんと実を結ぶ事を計画しているのので、自分を神様に委ねる事が必要です。

■ 幼子の様になる～邪魔するものに気づく～

今はお金とか物質的な実しか描けない様になり、愛とか喜びが実とは思えなくなっています。御霊の実とは、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制で、全て心の状態の事です。最大の秘訣は平安を与える事で、ここに喜びがあります。安心安全は平安をもたらしますが、不安定な要素の中でも神様に繋がると平安を保てるのです。神様の下に帰る事が大切です。でも、それは、刈り込みの時となり、しばらく実がみのらなくなる事であるかもしれないです。でも、大人の様に理解しようとせず、人生の最後まで全てご存知の神様に委ねましょう。私達を民にかけて2番目を選ばせ、ベストより少しずれた決断をさせようとする力に邪魔されず、神様に聞く人生を選べるようになります。世の中の方法は2番目以下の人生に向かわせるので、ベストな決断を選んで下さい。でもたとえベストが尽くせなくても、神様は農夫で私達がベストの決断が出来る様に関わり続け、刈り込みして下さい。実は時が来た時に神様がみのらせるのです。私達の責任は繋がる事で実をみのらすことではないのです。

■ 最後に

だから、神様と繋がり、そこから愛を受けましょう。今、もし、実を結べていないならそれは悲しむ事ではなく、神様が実を結ばせると言っているのだから、喜ぶ事です。神様の言葉を受ける事で平安を受けます。平安が与えられて初めて実を結ぶのです。その実は喜びです。その言葉を人に語り、愛し合ひましょう。

(要約者:日名 陽子)

(2018年10月21日)